



竹の子川柳会

- 風船がふわふわうかぶ楽しそう
小学校三年生
- ストレッツチ始める前に一休み
小学校三年生
- 友達に手紙をもらった幸せだ
小学校三年生
- 始めよう調理実習楽しいな
小学校四年生
- 宿題で読書しながら時計見る
小学校四年生
- 遊びたい時計の針をもどしたい
小学校五年生
- ふわふわと風船手から消えていく
小学校六年生
- お手紙は文字で気持ちがよく分かる
小学校六年生
- 年始から睡眠不足の自分たち
中学校三年生
- 腕時計しっかりつける社会人
高校一年生
- ふわふわと勉強内容とんでいく
高校一年生
- 皆からもらった手紙宝物
高校二年生

ひよし川柳会

- 農はいい自然と会話して生きる
中城 英雄
- 白寿めざして八十路が一万歩歩く
山本 節
- 未知の世界八十路どうなることかしら
水野すみこ
- 食べて寝て卒寿狙っている八十路
大崎 五葉
- 半月に満月願う狸連
宇都宮 忍
- 折半の味を知らない一人っ子
山本 雅之
- 半眼の佛に人の道を問い
渡辺 光男
- それぞれの想い手合わせどんど焼き
熊本 忠真
- 成人式和服それぞれ美の競い
木村 貞子
- 新ものはまずののさんと躰られ
菅原 由紀
- 新しい服で二十歳の祝い酒
兵頭チヨカ
- 世界新汗と涙のアスリート
若宮 賢敬
- 八十路など来ると思っていなかった
川添 忠昭
- それぞれの性格違ううまくいく
兵頭 好子

鬼北の足跡をたどる【第6回】

新たな町指定文化財の誕生

今年度新たに「等妙寺 堆朱香合」が町指定文化財に加わりました。六十一件目の指定となります（指定解除などを除く）。

香合はお香を収納する蓋付容器のことをいい、堆朱とは漆を用いた工芸技法の一種です。器に朱漆を何層にも塗り重ねたあと、文様を彫刻したものを堆朱といいます。表面が黒漆であるものは堆黒、黄であれば堆黄といった具合に呼ばれます。

蓋表面にはボタンあるいはシャクヤクの花枝文様が大きく表現され、側面には七宝繋ぎ（いくつもの輪を連続させたような文様）が、いずれも彫刻刀で精巧に彫り込まれています。さまざまな特徴から本作は、中国・明時代後期（十六〜十七世紀）頃に製作されたと考えられます（京都国立博物館名誉館員 久保智康氏の教示による）。いわゆる唐物として日本に舶載され、等妙寺で長らく使われたのでしょう。堆朱の伝世品として、とりわけ貴重なものです。



▲等妙寺堆朱香合